

事業者排出量削減報告書

| | | | | | | | | | |
|---------------------------|---|--|---|----------------------|---------------------------------|-----------------|----------------|-------|---|
| 住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） | 京都府宇治市植島町十一158番地 | | | | | | | | |
| 氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名） | コーデンシ株式会社 | | | | | | | | |
| 事業者の主たる業種 | 光半導体およびその応用製品の製造 | | | | | | | | |
| 該当する事業者要件 | <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上）） | | | | | | | | |
| 計画期間 | 平成20年4月～平成23年3月 | | | | | | | | |
| 基本方針 | 当社環境基本方針では電気・燃料等エネルギー使用量低減を環境目的として挙げており、ISO14001環境マネジメントシステムの運用を通して温室効果ガス排出量削減も含めた環境負荷低減の取組みを行っております。 | | | | | | | | |
| 推進体制 | ISO14001規格に基づき環境管理体制を構築し、環境管理事務局を中心に環境負荷低減活動を推進しています。 | | | | | | | | |
| | 環境マネジメントシステム名称 | ISO14001 | | | | | | | |
| | 適用範囲 | 本社、デバイステクノセンター、第3工場、第2工場 | | | | | | | |
| 年度ごとの具体的な取組及び措置の状況 | 取得年月日 | 2002/9/25 | | | | | | | |
| | 年度 | 設備、対象、工程等 | 措置内容 | | | | | | |
| | 20～22 | 全社 | クールビズ・ウォームビズ推進により空調温度管理を徹底 | | | | | | |
| | 20～22 | 生産部門 | 井水と生産冷却水の熱交換によりボイラー・冷凍機の負荷を低減し、電力量・燃料量を削減 | | | | | | |
| 温室効果ガスの排出量等 | 20～22 | 生産部門 | 冬季において冷凍機の出口温度緩和を行い、電力量を削減 | | | | | | |
| | 排出区分 | 基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算） | 目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算） | 増減率 （計画） | 報告年度（実績） （20）年度 （二酸化炭素換算） | 増減率 （実績） | | | |
| | A 事業所等排出区分 | 3,692.0 t | 3,542.0 t | -4.1 % | 3,626.8 t | -1.8 % | | | |
| | B 輸送車両排出区分 | t | t | % | t | % | | | |
| | C その他排出区分 | 9,954.2 t | 9,954.2 t | 0.0 % | 10,507.9 t | 5.6 % | | | |
| | 排出合計 | *1 13,646.2 t | *2 13,496.2 t | -1.1 % | *4 14,134.7 t | 3.6 % | | | |
| 実績に対する自己評価 | A区分におけるエネルギー総使用量は削減できましたが、C区分における増加分が響き総排出量は増加となりました。今後は影響の大きいC区分における排出量削減に取り組む必要があると認識しております。 | | | | | | | | |
| 原単位当たりの温室効果ガス排出量等 | 用途区分 | 原単位の指標 | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | 報告年度（実績） | 増減率（実績） | | |
| | 本社 | 二酸化炭素換算 従業員数 | 0.927 t/従業員 | 0.909 t/従業員 | -2.0 % | 0.955 t/従業員 | 3.0 % | | |
| | デバイステクノ センター | 二酸化炭素換算 生産数量 [百万chip] | 74.100 t/百万chip | 70.400 t/百万chip | -5.0 % | 83.908 t/百万chip | 13.2 % | | |
| | 第3工場 | 二酸化炭素換算 生産数量 [百万chip] | 3.863 t/百万chip | 3.477 t/百万chip | -10.0 % | 3.998 t/百万chip | 3.5 % | | |
| | 実績に対する自己評価 | 総排出量増加に加え、生産量が減少し工場における原単位での排出量は増加する結果となりました。生産量の増減による影響を抑えられるよう、いっそうの総排出量の削減と生産効率性の向上を図る必要があると認識しております。 | | | | | | | |
| その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等 | 対策等の区分 | 目標年度（計画） | | | 報告年度（実績） | | | | |
| | | 取組量等 | （二酸化炭素換算） | | 取組量等 | （二酸化炭素換算） | | | |
| | 森林の保全及び整備 | （整備面積） | ha | （吸収量） | t | （整備面積） | ha | （吸収量） | t |
| | 府内産の木材の利用 | （利用量） | m ³ | （削減量） | t | （利用量） | m ³ | （削減量） | t |
| | 自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給 | （発電量） | kwh | （削減量） | t | （発電量） | kwh | （削減量） | t |
| | グリーン電力の購入 | （購入量） | kwh | （削減量） | t | （購入量） | kwh | （削減量） | t |
| | 家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入 | （購入量） | t | （削減量） | t | （購入量） | t | （削減量） | t |
| | 削減量等合計 | | | *3 t | | | *5 t | | |
| | 差引排出量 （排出合計－削減等合計） | 基準年度（実績） | 目標年度（計画） | 増減率（計画） | 報告年度（実績） | 増減率（実績） | | | |
| | *1 13,646.2 t | (*1)-(*3) 13,496.2 t | -1.1 % | (*1)-(*5) 14,134.7 t | 3.6 % | | | | |
| 地球温暖化対策に資する社会貢献活動 | | | | | | | | | |
| 特記事項 | <ul style="list-style-type: none"> ■環境負荷物質・製品含有化学物質管理の徹底・強化 ■ペーパーレス化の推進によるOA紙使用量削減 ■消費電力低減品、製品体積低減品の開発促進 | | | | | | | | |

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。